子どもに必要な情報と安心できる場所を提供

神奈川県横須賀市　子どもと若者の図書館「衣笠駅徒歩1分図書館」

図書室。12畳の和室に約3,000冊の本が並んでいます

子どもと若者の図書館「衣笠駅徒歩1分図書館」は、子どもたちに必要な情報と安心できる場を提供することを目的に、神奈川県横須賀市に2019年11月に開設した私設の図書館です。古いアパートを借りて一般の方へ無料で開放し、絵本、児童書、学習書、小説、エッセイ、専門書、ビジネス書、漫画、図鑑、辞典、辞書、古書など様々な本を約5000冊ほど所蔵しています。所蔵書は主に地域の方々からのご寄贈本で、閲覧、貸出を無料で行っています。当館の特徴は、子どもと若者を主な対象としていること、すべて寄贈本であり地域の方々の日常生活に溶け込む場であることを大切にしています。

●利用者

利用の傾向として、午前中は、乳幼児を連れたお母さんがいらっしゃいます。子どもを遊ばせたり、人とおしゃべりをしにきたり、本を読んだり少し休んだりしながら過ごされることが多いです。午後には、学校を休んだ小学生や、学校帰りの小・中学生が本を読みにきます。夕方ごろになると、高校生や若者が勉強や読書をしに訪れます。

大人は、年配者、教育・福祉関係者、地域活動の方々などが、仕事の合間や買い物のついでなど随時訪れ、ご寄贈本や活動のチラシをお持ちくださったり、植物のお手入れをしてくださったり、子どもたちの話し相手になったり、思い思いに用事やできることをして過ごされています。

●地域との連携

・地域の人と人のつながり

当館にお持ちいただくご寄贈本は、ご自身が好きだった本、子どもと若者に読んでもらいたい本、誰かとシェアをしたい物語など、お一人お一人の気持ちがこもった本ばかりです。本を通じて、地域の方々との顔が見えるつながりがうまれ、子どもと若者のために、という共通意識が育まれています。地域活動とつながりのなかった男性が奥さんに勧められてご自身の本をお持ちくださったり、本をきっかけに集まった利用者さん同士が同じ場所で時間を過ごすことで交流が深まり、図書館の外でも交流が継続して新しい2次コミュニティがうまれています。

・地域と人のつながり

当館には、図書室とは別に会議室があり、子どもと若者にとって良い活動でかつ参加費はとらないものに限り、無料でご利用をいただいています。

衣笠駅徒歩1分図書館の外観。昔の工場の社員寮だった建物

子育て中のお母さんや、子どもと若者に関する活動をされているNPOや市民団体の方々などが、勉強会やワークショップなどを実施しています。

・行政、専門機関、NPO、市民団体とのつながり

本をきっかけにして、行政の広報誌で当館をご紹介いただきました。また、地域の図書館の会や教育関係者の方との連携のご縁をいただいています。また、子どもと若者をきっかけにして、地域の医療機関や助産師会のみなさんなどと連携の計画を練っています。

・地域に芽吹く、まちの人の「何かできるかも」に寄り添う

何かを始めるにあたり一人では一歩を踏み出しづらく感じる方が多い中、小さな一歩を踏み出す場として応援し、なるべく地域の方の自己実現の機会になるように務めています。みなさんの大切な一歩が、地域の方々同士の出会いのきっかけをつくり顔の見える関係を育み、他の方の小さな一歩を後押しになるつながりと勇気を生み出す連鎖が起きています。これを継続することで、地域のみなさんの手による痒いところに手が届くような、それぞれの等身大の日常に寄り添う機会とネットワークを形成しています。さらに、この地域のネットワークに子どもと若者がつながるよう、世代間交流の機会を積極的につくっています。

福祉、教育、医療、育児、ライフスタイル、食、芸術など多岐にわたる分野と横断的に連携しています。特筆すべきは、図書館として「何かイベントを開催してほしい」と募集や依頼を行っているのではなく、利用者のみなさんが図書館で過ごす中で自然と想像力を働かせて自発的に企画から実行までに至っている点です。

●特に力を入れている雰囲気づくり

所蔵本はジャンル毎に並べずランダムに置かれた本の中から探す工程で、普段は見ないジャンルの本との偶然の出会いや発見を楽しんでもらい、なるべくたくさんの本と巡り合う機会を作っています。また、あのジャンルを見ているということはこうなのかな？というような他の人の目や詮索を気にすることなく関心のある本を手にとってもらえれば、と考えています。

なるべく物事を「決めない」ことを大切にしています。誰かにとって正しいことも、誰かにとってはそうではない時もあります。当館では、なるべくルールを定めずに、来館者のその時の気分で過ごし方やその場のあり方が移ろう雰囲気づくりを大切にしています。

●なぜ図書館を開いたのか

虐待など困難な環境にある子どものケアに一般人の私ができることはないか、と考えたのがきっかけです。被虐待傾向、経済的に厳しい状況下、家に居場所がない子どもなど、児童相談所での保護まで至らないけれども家庭で安心して暮らすことの難しい子どもがいると言われています。そうした子どもたちは多数おり周囲からは気づかれずに地域に埋もれてしまっています。困難な環境にある子どもとの接点をつくるために、地域には子ども食堂やカフェなどがありますが、それでも届かない子どもたちがいることはよく言われており、実際、命を落とす子どものニュースは後を絶ちません。

地域の人たちによる思い思いのワークショップが開催される。写真はみんなでお絵描きの様子

日常の行動に取り入れやすい場をつくり、一般の人が楽しく過ごす生活の延長上でこういった情報に触れられる機会を提供し、子どもたちはこの場所に、困っていても困っていなくても好きな時に立ち寄り、本を通して自分の時間を過ごしたり家や学校以外の大人や友達など多様な仲間を作ることができます。

そして、子どものことを一番見えているのは子ども。困っていそうな友だちがいたらあそこに行ったらいいよ、一緒に行こうよ、などと子ども同士の助け合いの受け皿になることで、社会から気付かれていない子どもの居場所を作れるのではないかと考えました。子どもに本来備わっている力を信じ、子どもが自分を守る、子どもが仲間を守る、例え気がかりや困っていることがあっても言いたくないことを言わなくても居られる場所です。

●今後の展望

子どもと若者の図書館「衣笠駅徒歩1分図書館（キヌイチ）」に続き、有志によって2号館「たまプラーザ駅徒歩2分図書館（ぷらに）」が開設され、神奈川県や、東京など延べ15館ほどになりました。キヌイチは近隣住民のみなさんと運営をしているのに対し、ひとつは神奈川県との協働事業として県営団地内で運営をしています。またひとつは地域の小中学校・自治会・民生委員のみなさんと協力して運営をしています。

助産師さんによる「いのちの授業」

ひとくちに「地域の力」と言っても、地域の住民、行政、地域の機関等様々な方がおられる中で主体をどこに作りどのような関係性を築いてゆくと子どもたちに沿うことができるのか学びながら少しずつ歩んでいます。

ゆくゆくは、全国すべての子どもの徒歩10分圏内に図書館があるようになり、すべての子どもと若者が日常生活の中で必要な情報と場所につながり続けることが当たり前の社会になることを願っています。

（子どもと若者の図書館
「衣笠駅徒歩1分図書館」　館長　北川幸子）